

## 12月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 平成29年12月15日（金）

2、閉会年月日 平成29年12月15日（金）

3、出席委員氏名

名倉 幸子 前川 喜太郎 田中 久善

西畑 敦司

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 森 継 隆

事 務 局 長 仲 谷 俊 充

事 務 局 参 与 西 本 宣 康

事 務 局 次 長 岡 本 匡 史

事 務 局 次 長 吉 岡 昌 則

教 育 総 務 課 長 西 岡 昭 人

生 涯 学 習 課 長 嶋 崎 博 康

文 化 財 課 長 松 本 洋 明

教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長 西 田 智 也

教 育 総 務 課 庶 務 係 長 土 田 裕 彦

5、会議に付した議案の件名

日程第1 教育長報告

日程第2 議題 なし

日程第3 報告 平成30年度 小規模特認校（福住小）への  
就学希望状況について

「鑄造体験 ミニ古墳出土鏡をつくろう！」

平成29年度実績と今後の見通しについて

6、会議の経過議題

開会            午後 1時30分

閉会            午後 2時11分

## 1 教育長

ただいまから12月定例教育委員会を開会させていただきます。

本日の署名委員は、西畑委員と名倉委員にお願いいたします。

まず最初に、私から報告をさせていただきます。

まず3日は表彰式、どうもありがとうございました。

7日に北中で奈良県の中学の社会科教育研究会が行われまして、行かせていただきました。そこで中学一年生の公開授業で、テーマが「ブラジルの開発について」、それと「自然と開発との共存」ということで、問題点とかどうしたらいいだろうかということ、グループで討議していくという授業を展開されていまして。

10日は音楽会で、各学校からよいハーモニーを演奏していただいたと思っています。

11日は青少年を守り育てるという少年の主張が、昨年に続いて実施していただきまして、よい主張を聞かせてもらいました。

そして、あと14日は自主公開授業研究ということで、二階堂小学校でありまして、一年生の図工の授業を見せていただきまして、簡単に説明すると、いろんな動物を合体させるということで、いろんな動物をつくろうということで、生徒たちが自由な発想でキリンとライオンの合体したものや、いろんなものを自由につくると。教室や廊下にジャングル的なものをつくっていただいて、雰囲気から廊下でつくる子もいてるし、教室の運動場側の窓際は海にしているので、海の生き物をつくろうということでよい学び、よい勉強をされていまして。子どもたちが自由に考えて、いろんな条件のもとで工作をされているということ、なかなかよい公開授業だったと思っております。

そして29日30日は、前栽小学校で公開授業、研究授業をされていまして、29日は算数、30日は国語と英語の授業を見せてもらいました。算数は六年生でアクティブラーニング的に皆で教え合うということで、一つの問題を同じ4人ぐらいのグループで、皆がわかるまで教えようということで展開されていまして。

30日の国語は、今年新規採用の先生が、これも皆で話し合うという授業を展開されていて、6時間目は六年生で英語の授業をされておられました。天理市内、僕のほうは英語の授業を初めて見せてもらいましたが、日本語よりは英語のほうが多い、英語のほうは日本語以上に多くを使って、授業をされていまして。

11月の私の報告は以上ですが、何かご質問ございますか。

#### 1 田中委員

2点だけ。一つは小学校の音楽会ですが、保護者は入れかわりでおいでになってるんですが、そういう反応というか、どういう感想をお持ちなのかな。

#### 1 吉岡事務局次長

今のところ、大きな声は聞こえてないですけども、入れかわりのやり方も定着してきているので、自分の学校が終わったら入れかわる。中には隠れるようにしてずっと座ってる人もいます。だからずっと見たいのかなというふうには思うんですが、近年生徒の数も減ってきて、後ろの保護者席も随分余裕があるのですが、まだ全部をいっぺんに入れるとなると、それはキャパ的に足りないなので、しばらくは現状の形になろうかなというふうに思っています。ほかの学校も見たいという意見は確かにあると思います。

## 1 田中委員

保護者の意見等は、学校で吸い上げれたらいいんですけども、年に一回、一生に一回の音楽会ということで、何か意見があればと思いました。

二点目ですけども、いろいろ自主公開授業をされておりますけれども、助言者等は入っておられるんですか。

## 1 教育長

1 4日の二階堂小学校のところには、大阪府の公立の元校長先生が、助言者で来られています。

前裁小は自主的、文字どおり自主的に学校の中で行われる授業研究です。

## 1 田中委員

これはお互いに教師が、それぞれを見てということはあるんですか。

## 1 教育長

そうです。先生方が見てコメントを書いてくれる。まず、その場ではコメントを書いて、そのあとでまた集まって、研究会をされています。

## 1 田中委員

当然、研究主任なりがおいでになると思うんですけども、また外部の指導者なりに見ていただくということは、非常にいいのではないかなど、自己満足で終わらないためにも、そういう助言者をもっと入れての学びがあってもいいのかなと思いますので、そう思いました。以上です。

## 1 教育長

ほかにございませんか。

1 名倉委員

私も重なるんですけれども、音楽会は各学校で、参観日などでまた、発表とかされていますか。

1 吉岡事務局次長

はい、やっています。

1 名倉委員

いつもされていますか。

1 吉岡事務局次長

全校の前でも披露して、また保護者にもその前後の参観日で、披露してると思います。

1 名倉委員

わかりました。もう一つ、公開事業の算数の4人ぐらいのグループのアクティブラーニングなんですけれども、これはこういう試みっていうのは、各学校でもされてるんですか。

1 教育長

各学校になりますと、隣同士で議論するとか、さっきの4人ぐらいとかは、グループ学習というもので、以前からされていたので、それは各学校でやっています。

僕が見た前栽小学校は、わからない子を教え合うっていうことで、グループで教えてあげて、わかるまでということ。その先生は昨年ぐらいからされています。

1 名倉委員

そうなんですね。今回のこの目的というのは、算数に取り入れるア

クティブラーニングの目的ということで、公開しているのですか。

1 教育長

アクティブラーニングが目的というか、その先生は順列、並び方というもので、導入の授業として、最初の4人を一列に並べるのは何通りあるかというのをみんなで考えようということで、僕は途中からなので申しわけないですけども、そういうものを手腕とか、その流れから見ててそういう授業をみんなで見ていただいて、ほかの先生から意見を聞こうという感じだと思います。

1 名倉委員

この先生が割と積極的に取り入れておられてることなんですよね。

1 教育長

そうですね。昨年ぐらいからやっておられます。

1 名倉委員

そうなんですか。またほかの先生のステップアップにもなりますし、自分にはない考え方とかわかりますので、ちょっとこれ興味深いなと思ってお聞きしました。ありがとうございます。

1 教育長

よろしいでしょうか。

1 前川委員

済みません、公開授業、田中委員さんがおっしゃったように、どんどん私はやったらいいと思うんです。それで教える先生もいろんな意見を聞いて、また勉強になるし、見に行った先生方もそれによって、こういう教え方、こういうやり方があるんだなということで勉強にな

ると思いますので、できるだけたくさんの機会を設けていただいて、  
こういう公開授業はしていただければなというふうに思います。

これ学校内での公開授業もあれば、これ北中のやつはほかの中学校  
からも来られたのですか。

1 吉岡事務局次長

県の研究大会の会場に、北中がなったんですけど。そこで県下の社  
会科の先生が集まる中で、北中の先生が授業を行ったということす  
ね。

1 前川委員

本当にもう県下の先生方も来られたということで、前裁小学校はこ  
れは学校内の公開授業ですよ。

1 吉岡事務局次長

学校内です、そうです。

1 前川委員

二階堂小もそうですか。

1 教育長

二階堂小は県内に呼びかけての自主公開授業です。

1 前川委員

できるだけこういう機会は、先生方も自分の教え方、なれが出てく  
るとは言いませんけれども、やはりほかから見ていただくことによっ  
て、また意見いただくことによって、勉強になると思いますので、ま  
たこういう機会はなるべくたくさんとっていただいたらいいのかなと、  
私は思いました。

それともう一点だけちょっと、学校訪問、園訪問ですけども、日程



のない中でいろいろと調整していただいて、組んでいただいたこと感謝しておりますが、ちょっと時間的にせわしくなかったかなと、私は感想を持っています。もうちょっとゆったりと、いろいろと意見交換もできたらなというのが、いろいろと調整していただいた中であれですけども、そういう感想を持ちました。以上です。

#### 1 教育長

よろしいですか。またそれを参考にさせていただきます。

それでは、次にいかせていただきますが、日程第2の議題は、本日はございません。

それでは日程第3の報告に移らせていただきます。

最初に平成30年小規模特認校、福住小学校で行う小規模特認校について、学校教育課、よろしくをお願いします。

#### 1 吉岡事務局次長

失礼します。それでは手元の資料、3ページをごらんください。

今年度から実施しております、福住小学校での小規模特認校制度でございます。今年度は8名の子どもたちが、区域外から就学をしてくるということになりました。今年も同じような形でオープンスクールをし、そこにまた資料もありますけども、学校説明会あるいはチラシ等を配りながら、オープンスクールをして面談等をさせていただきました。

10月30日の学校訪問、オープンスクールには13軒のおうちの方が子どもさんを連れてやってこられまして、授業を見ていただいて、説明会に参加していただいて、我々の説明とあるいは意見交換というか、質問をお受けさせてもらったという形になっております。

その中で4名の子どもたちが、校長面談を受けてくれまして、一応校長面談の結果、登下校も心配ないだろうということで、そこに書いております来年度、30年度は一年生2名、朝和校区と前裁校区から一年生が2名。それから四年生が1名、丹波市校区から来ます。それから五年生が1名。井戸堂校区から来ます。その希望理由によりますと、面談のときに保護者の方と話をさせてもらったら、新四年生、五年生はやはり大きな集団の中で、なかなか自分が発揮できないというのがありますし、きょう、今回福住の授業を見せていただいて、非常に落ち着いて静かな中で授業を進められているので、好感を持てたのだというご意見をいただきました。

それから一年生2名のおうちの方からは、やはり大きな集団になったときに、自分の子どもがどうなるか心配なのでということで、できるだけ小さい集団で極め細やかに見ていただけたらありがたいですというご希望であったかと思えます。

それでいきますと、来年度の学級編成ですけれども、一年生がもともと在籍が2名でしたので、小規模特認校の2名を加えて、一年生が4名、二年生が7名、三年生が9名、四年生が9名、五年生が6名、六年生が7名、合計42名というふうになります。

今年度は43名でしたので、一名減になりますけれども、これでいきますと県の基準に合わせますと、4、5か5、6がどちらかが複式学級の対応にせざるを得ないようになるわけです。

特別支援を抜きまして14名ですので、四年生五年生、あるいは五年生六年生、どちらかが複式学級の対応をしないとイケないということで、一クラス複式になります。それで従来通り、市の費用で講師1

名を福住のほうに配置しますので、実質は複式学級が解消されるという形になるかと思えます。

在籍率ということで簡単に、今年度29年度は8名ですので、全体の在籍率、区域外者の在籍率が18.6%。来年度4名ふえて12名になりますと、28.5%ということで、どの辺までふえていくのかわからないところですが、3割弱というところで、全体の人数的に規模から見たら、50人前後が理想かなというふうに思えますので、来年度また募集に際しては、その辺ちょっと工夫をして、この学年だけとかいうような形も、また考えていかなければいけないのかなというふうに思っているところでございます。

それに伴いまして、通学、バス定期代ということで、天理～井之市口間のバス定期が大体、半期ごとで5万8,940円ですので、12名分、一年間で141万4,560円のバス代がかかるということになります。

参考までに、もし今年度から小規模特認校制度を実施していなかったらどうなっていたかということで、そこに書かせていただきました。一年生2名、二年生4名、三年生9名、四年生3名、五年生4名（特別支援学級1名）おりますけども、六年生6名、特別支援学級2名入れて30名というふうになります。そうしますと全ての学年が、複式学級になってしまったということになりますので、小規模特認校制度をして、その面だけはカバーできたのかなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

## 1 教育長

ありがとうございました。何かご質問ございますか。

1 西畑委員

ここをちょっと、多分こういうことでもいいのかなという確認なんですけど、29年度に特認校で来られた8名の方というのは、その一番上の表の在籍児童数の中に入っているということですね。

1 吉岡事務局次長

はい。入っています。

1 西畑委員

それが抜けた場合ということ、一番下の表がということですか。

1 吉岡事務局次長

はい、そういうことです。それが入ってなかった場合ということ  
です。

1 西畑委員

ということですね。

1 吉岡事務局次長

はい。

1 西畑委員

8名の方はそのまま来ると、通学されるということですね。

1 吉岡事務局次長

そうです。

1 西畑委員

はい、ありがとうございます。

1 教育長

どうぞ、名倉委員。

1 名倉委員

済みません。さっきおっしゃった募集にあたっての工夫なんですけれども、前回、今回、今2年目なんですけど、オープンスクールに来られた方々というのは、どこでこの情報を仕入れられたとか。

1 吉岡事務局次長

このお手元のチラシのほうを市内の小中学校と、それから幼稚園・保育所の5歳児さんに全て配らせていただきました。

それと町から町へも案内をかけさせてもらったので、一応これ全戸配布ということでやらせていただいています。

1 名倉委員

わかりました。保育所・幼稚園、5歳児。

1 吉岡事務局次長

はい、5歳児です。入学ですので。

1 名倉委員

もう各個人に持って帰ってもらったんですか。

1 吉岡事務局次長

はい、もちろん持って帰ってもらいました。

1 名倉委員

そうなんです。じゃあ結構、周知としてはチラシも十分、行きわたっているということですね。

1 吉岡事務局次長

はい。

1 名倉委員

わかりました。

1 吉岡事務局次長

3, 000枚つくらせてもらって配りました。

#### 1 名倉委員

そうですね、後ちょっと、誰かから聞いたとか、そういうのもあると思うんですけども、それはまた工夫というのは、いろいろ考えて、私もいろいろ考えてみたんですけども、そのホームページとか見たらすごく詳しく書いてるんですよ。小規模特認校の取り組みのことについてとか、特徴的なこととか書いてるんですけども、このチラシでそれが十分に補えてると思いますけども、もうちょっと周知のことで何か新しい方法があればと思っております。

それともう一つ、済みません。この聞きに来られて今年、13軒の方で、福住をやめた理由っていうのは何かもしあれば。

#### 1 吉岡事務局次長

全部が全部、把握はしておりませんが、やはりバスで通うという、バスに乗っている時間が30分ほどありますし、バスをおりてからも、バス停からも2、30分ありますので、それがまず一点。

それから私学のほうを希望されてる方もありましたので、そちらのほうで合格になったということもありますので、そういうのもあります。だから、最終来られなかった方の詳しくは、理由は聞いてませんが、多分、判断の材料の大きな基準はやはり、そういう登校面であったりとか、兄弟関係があって、兄弟一緒に行くのが嫌だとか、そういうのもあるかと思えます。

#### 1 名倉委員

なるほど。やはりそれぞれの保護者が一体、何を求められているかということですよ。

1 吉岡事務局次長

はい、そうです。

1 名倉委員

だからそれを、ちょっとこう深く掘り下げて知るというのも、大事かなと思います。

それともう一つだけ、済みません。やはりこの小規模特認校である以上、何か特色を求めて来られる方もいるかなと思うんですけども、天理市内は自然も豊かですし、福住ではなくてもほかの地区でも十分に豊か、そして地域との関連も強いということで、やはり福住ならではの取り組みっていうと、少人数で手厚い授業とか、あと、関係ですね。友達関係とか先生との関係とかがあるんですけども、その中で一つ、体育、運動と学力の向上というのが、物すごく目玉になってるかなと思いますので、またそちらのほうももっと推し進めていかれたらいいのではないかなと思います。以上です。

1 教育長

ほか、どなたか。よろしいですか。

1 田中委員

じゃあ一点だけです。

1 教育長

はい。

1 田中委員

面談のときに、ちょっと矛盾した話になるなと思いつつ、ちょっと葛藤してるんですけど、一年生が入るのに集団の中に入るのが心配だからという親、その意見を「あ、そうですか」ということで、果た

していいのかなと。「そうじゃない。子どもは、集団の中で生きていくことも大切ですよ」という指導が、何かあってもいいのかなと思うのですがいかがでしょうか。

#### 1 吉岡事務局次長

面談の内容は、後から報告を受けただけなのでわからなかったんですけども、そういうことをおっしゃることも確かだと思いますし、特に前栽小学校の人数は多いですので、それに対する保護者の不安というのものもあるのかなというふうに思います。だから、僕は説明会の中で何も慌てて一年生から来られなくても、入学してしばらくして、やはり子どもに合わないなと思ったら、それからでも遅くないと思いますというのは、保護者の方に直接私は、お話しさせてもらいました。

そういうことも選択肢の一つとして、考えてもらえたらありがたいなというふうに、私は余り一年生から来られるというのは、賛成ではないんです。説明会ではそういう話もさせてもらいました。他の地域へ行って、小学校が何なのかもわからないままに、初めてランドセルを背負ってくる子に、そういうのも過酷かなというふうに思って、地域へまず行って見て、それで合う、合わないがあったら考えられたらどうですかということも、話はさせてもらったんですけども。後はやはり今、委員のほうからありましたように、保護者が何を求めて来られるのかってということかなというふうにも思います。そういう話もさせてはもらってるんですが。

#### 1 田中委員

この子は幼稚園ですか、保育所ですか。

#### 1 吉岡事務局次長



一人は私立の保育所、もう一人は幼稚園です。

#### 1 田中委員

いわゆる集団の中に何かあったのかどうかっていうところも、やはり教育する側から言えば、知る必要があるのではないかと。だから親の意向、親が心配だということが、実は幼稚園・保育所にあったのではないか。あるとすれば幼稚園・保育所の教育保育を変えていかなきゃならないのではないかというふうにも思いましたので、また今後、検討いただけたらと思いました。以上です。

#### 1 教育長

次の報告に行かせていただきます。

鑄造体験のところでは、「ミニ古墳出土鏡をつくろう！」ということで、文化財課。

#### 1 文化財課長

文化財課から地方創生推進交付金でやっております、鑄造体験のミニ古墳出土鏡をつくろうということで、資料のほうは今現在進行中の実績の資料をお持ちしたんですけども、お話をする前に、こんな物を使ってるという道具類だけ見ていただこうかと思いましたので、お持ちしました。こういう6種類の物があって、これが鑄型なんですけど、こういった物。シリコンゴムというので型にしておりまして、それを使って鑄造体験をするんですけども、大体この体験をしていただくのに、一時間ぐらいの行程で体験をしていただくというコースになっておりまして、最初に来られましたら、そこのお母さんとか子どもさんが来られましたら、最初にその6種類ある鏡を見ていただいて、どれがいいだろうということで、それを選別して選んでいただいた上で、

それぞれその形の鋳型を持っていただいて、それで低温で139度で溶ける、こういうインゴットと呼んでいます。低温の金属があるんですが、何となくハンダによく似た物なんですけども、こういった物を実は電気コンロの鍋におきまして、目の前で3分か4分ほどで溶けていくと。その溶けた物をこういう鍋からこぼすような形で、その鋳型を合わせた入り口から流し込んで行くということで、流し込んだ後、5分ぐらい、しばらく待ってもらいます。それで待っていただいて開くと、その中から形になった鏡が出てくるということになります。大体そこまでは10分ぐらいの行程なんですけど、そのあと実は、鋳型から上がってきた鏡は、表面がぼつぼつ、でこぼこがありますので、それを実は紙やすりの水やすりなんですけども、少し粗めの物とこま目の物を使って、磨いていただいていくと。これが粗めが20分、こま目が20分で、大体それで最終的にテカールというんですけれども、金属を光らせる薬を塗ってもらって、光沢をもたせてもらうという。それで大体一時間ぐらいの行程になります。そういうことで体験としましては、最初に鋳造するときにくわく感で体験していただいているのが、今の状況でして、そのあと、磨く段階になりますとやはり、子どもさんの場合はちょっと、忍耐力がなくて、あとはお母さんが一生懸命やってるという、そういう場面もある感じでやっておりました。そんなものだということで、ちょっとご認識の上で、状況だけ報告させていただきます。

資料のほうですが、今年度につきましては、7月の23日に夏の文化財展のときに行いました鋳造体験、それから11月にかけてなんですけども、11月3日の文化の日と11月23日の祭日の日に、この

日に黒塚展示館を使って鑄造体験。それから11月の20日は天理市のトレイルセンターですけども、こちらで鑄造体験という形で活動させてもらいました。

今後の予定というところでは、年明けの1月20日なんですけども、これは柳本町にあります障害者ふれあいセンター、黒塚展示館の黒塚古墳展示館の北側にある建物なんですけども。そこを使って体験学習をしてもらおうということで、黒塚古墳も一応、今年度は発掘調査で、平成9年度にありましたので、ちょうど20年目ということで、20周年記念というタイトルとしまして、体験していただくということで、現在予定しているところです。

成果としましては、この表の3段目のところに体験回数、体験人数、参加料と書いてます。参加料はおきまして、体験回数なんですけども、最初の7月23日の日は16個ということは、16人が一応、実際に鑄造を体験したと。その下人数というのは、一緒についてこられた方を計算すると20人も21人もおられたということになります。それでいきますと、黒塚展示館ですけども、11月3日のときには30個。それから11月23日は41個という形で結構よろこんで、楽しんでいただきました。

来ていただいた方々も、町から町を見られたり、あるいはチラシなんかを見られたりして来られた親子の方、あるいは個人の方。それから黒塚展示館では、たまたま山の辺の道を散策に来て、展示館に入ったら、こういうのをやっているのだから参加したという、そういった方々もおられました。

黒塚展示館のほうは、36、41と数が多かったのは、そういう山

の辺の道を散策に来られた方が、ちょっと時間に余裕があったので一時間でできますということで、体験していただいたと、そういったことになります。

予定では、1月は30個ぐらい常にこなせるように、また1月の町から町へ、あるいはホームページなんかに載せて、参加していただくと考えております。

今度やります1月の体験学習は、7月23日にやった体験の人と同じなんですけども、始めます前にちょっと鏡のお話を5分ほどして、その辺で簡単な知識を持っていただいて、こういう体験をしていただくということになります。

体験と言いましても、実際は本当の昔の方の研磨はどうしてたかというのは全くわかっておりませんので、研磨の仕方は、これは今のやり方ということでご理解いただきたいんですけども、それでもこういう鏡をつくるという、鑄造して溶かしてつくっていたという、そういう技術が昔にあったんだということを、子どもたちの場合は知っていただければ、それが一番いいのかなということで考えております。

そんなことで、またこの後、地方創生推進交付金の事業ですけども、平成32年まで一応、予定しておりますので、大体これぐらい年間に5回ぐらいのペースで、今年度は後半期から始めましたので、来年度は春期も含めながら、展開させていけたらいいかなと、そのように考えております。以上でございます。

## 1 教育長

ありがとうございました。

今の報告で何か、ご質問ございますか。西畑委員。

## 1 西畑委員

たくさんこれ、興味持っていていただいて、非常にいいなと思っていて、まして、予約制でないときのほうが随時来ていただいて、たくさん体験していただいたというようなことで、ちょっといろいろ考えるところがあるんですが、まずこの7月23日であるとか、11月20日であるとか、予約制にしてというところのほうが、随分やはり体験の個数が少ないわけですよ。これは予約制にしなければいけないのはなぜですか。

## 1 文化財課長

実は、大体一回のテーブルで溶かせますが、多くて6個なので、鑄型が12ございまして、一度に12人の方が溶かして体験することができると、そうしたら12ですけども、大体作業の時間数で計算していきますと、やはり限界一つ、数としては40個ぐらいが一日こなせるのが、ペースかなと。どうしても人数に限りがあるというところと。それと溶かしたりそういう作業がちょっと細かいところございまして、担当の職員もそれに合わせておりますので、どうしても限界があるということで、大体予約制で来ていただくほうが、どれくらいそのときの想定で対応できるかということになりますので、仕事としてはやりやすいというふうに考えてます。

## 1 西畑委員

展示館で随時、受け付けられたというのは、その手が足りなくなっ  
たときに誰か呼んでくれるからということで、予約なしでやってこ  
れたということですか。

## 1 文化財課長

今回はちょっと、試しでやりました。予約なしにしたらどうだろうか。実は直前に新聞に公表しようとしてたんですが、11月3日は新聞なしで行いまして、そのときに36個を人数にしまして、まだもうちょっとたくさん参加されたんですけども、お昼休みが終わったあとに、10人ぐらい並ばれまして、一度に4席しかできないので待っていただくという展開がありまして、それで、もしたくさんの方が一度に来られた場合、できない方がおきるんじゃないかかないかという想定がされましたので、11月23日の新聞発表はおいて、とりあえず来られる方を対応するだけでも結構いけるんじゃないかということで、実際しましたら41個をこなせましたので、大体これぐらいが新聞講座とかそういった公表はなしで、大体偶然来られたという方も捕まえながら、41個のこなしは、仕事量としてはこの程度かなと思います。後はもっとふやそうと思ったら、もうちょっと広い会場で展開できるかなと思います。

次にやりますふれあいセンターの30というのは、これはあくまでも予定の数でして、もう一機ふやせますから、一回につき10人ぐらいの対応でできると思いますので、それで4回ほどしましたら、40個ですね。それぐらいの数になるかと思っています。

#### 1 西畑委員

とするとこのシリコンゴムの型をふやしてということになっても職員の方が横ついていてくれなければいけないので、その数がふやせないということですね。

#### 1 文化財課長

そうですね。ゴムの数をふやしたらいいかとも思ってたんですけど

も、溶かしてやるときの場面というのが、かなり一緒について、流し込むときに結構、こぼれるんです。そのときに軍手とか手袋もしてもらってるんですけども、一応慎重にそのときだけやりますので、やはり10個ぐらいが一番、対応の仕方としてはいいペースかなと思いますので、そのときに10人に対して3人ほど、職員が対応します。それでそれが終わったら次に、研磨のほうに移動してもらおう。そちらのほうにまた二、三人の職員がいて対応するという、そういうペースになるかと思います。

#### 1 西畑委員

今年の年間消化目標というのは112個ということなんですが、来年またこれ、春ごろからというふうにお話しされてました。これ来年の消化目標量というのは、幾らなのですか。

#### 1 文化財課長

目標は今、言いました112個が大体、これが大体ペースで考えますので。

#### 1 西畑委員

毎年ですか。

#### 1 文化財課長

はい。

大体この数くらいかなと。

#### 1 西畑委員

そうすると、年間5回とおっしゃったその今、今回のその11月3日とか23日に予約なしでやられた分というのを、もうちょっと広く間隔持って、予約をとられてやられるようなそういう意味ですか。

## 1 文化財課長

予約は多分、黒塚でするときは、このやり方だと思います。予約なしですね。一応公表はしていますけれども、町から町へに公表してですね。だけど、黒塚展示館へ偶然来られた方、興味を持ってもらって参加していただくという。

## 1 西畑委員

春ころからやられるということになると、回数ふえるのかな、あるいは別のこのペースの中のどれかを春に回されるのかなと。

## 1 文化財課長

そうですね、この11月に黒塚の展示館をやってる2回のうちの、どちらか1回を黒塚の展示会に回すことになるんじゃないかなと思います。あの今年はどうしても、夏ごろに鋳型ができあがりまして、始める時間がちょっとおそかったものですから、11月に集中させてるんですけども、もうちょっと期間を、時期を広げてやろうかなと、そうやることになると思います。

実はその材料になります低温で溶けますこの金属なんですけども、これをもう既にお買い込みをしまして、それを地方創生の交付金の補助金で買い込んでるものですから、それで一応、単価は800円ぐらいなんですけども、それを補助金で50%もらってますので、半値の400円という形でしています。

来られたお客様に400円だったら安いなということ参加される方もありますけども、今度ふやしますと、それを400円にするのかどうかというのはちょっと、調べたところでして、とりあえずはまず、地方創生にて購入した材料を、うまく年間何個くらいこなすという、



今言いました112個ぐらいをこなしながら、32年まで活動しているかなというふうに考えています。

1 西畑委員

たくさん興味を持っていただきたいと思うんですが、その予算のところのジレンマがあるということですね。

1 文化財課長

そうですね、ちょっとそういうものは感じています。

1 西畑委員

なるほど。この交付金という物は、これ以上ふえないんですか、やはり。

1 文化財課長

そうですね、交付金のほうは、この計画でスタートしてるものからこの内容になってます。

1 西畑委員

わかりました。たくさん体験していただきたいという気持ちがあつて。

1 文化財課長

実際にやって、足らなくなった場合は、当然また買いこみはすると、当然するものになるかと思えます。

1 西畑委員

突発的に何かこういう予約外のところでも体験できるときは、ちょっと高いのですができますよぐらいの方法もあってもいいのかなとは思ったりもしたんですが、ちょっとそこら辺は参加する人とのかねあいもあるので、また検討していただけたらなと思えます。よろしくお

願います。

1 教育長

よろしいですか。

では、これを持ちまして、本日の定例教育委員会は閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 2時11分